

# 古英語 *gesettan* とラテン語 *constituere* について

石 原 覚

## I

以下は、作者の神への信頼が表明されたウルガータ (*Vulgata*)<sup>1)</sup>の詩篇の一節である。ここでは「据える」などの意味を表す動詞 *constituere* が用いられている。

- (1) *in pace in id ipsum dormian et requiescam quoniam tu Domine singulariter in spe constituisti me (Ps 4:9-10)*<sup>2)</sup>

(平安のうちに私は眠り、また安らぐであろう。主よ、あなたが私だけを希望のうちに据えた(堅固にした)からである。)

「据える」などの意味を同様に有するため、古英語の動詞 *gesettan* は、後に示すように、しばしば *constituere* と訳語と原語の関係になるが、(1)の *constituere* にも、11種の古英語の詩篇行間注解 (*Psalter glosses*)<sup>3)</sup>では、次の(2)におけるごとく *gesettan* が注解として当てられている。

- (2) ... *for ðon ðu dryhten synderlice in hyhte gesettes me (PsGLA 4.9)*

ここではラテン語原文の前置詞 *in* と「希望」を意味する名詞 *spes* の奪格 *spe* が、古英語の前置詞 *in* と同じく「希望」を意味する名詞 *hyht* の与格 *hyhte* により表されていることにも注目されたい。他の10種の詩篇行間注解においても同様に *in* (または *on*) と *hyht* の与格が、ラテン語の *in spe* という表現を訳すのに用いられている。

P. Mertens-Fonck は、(2)の *gesettan* を「(人を権威ある地位に)置く」(“to place (a person in a position of authority)”)の語義のもとに挙げている——つまり「(比喩的にある場所に、ある地位・職務に)据える」の意味でとらえている——が、<sup>4)</sup>本稿では、*gesettan* と *constituere* の用法を、これらの動詞が人間を目的語として支配するケースに限って調べることにより、(1)の *constituere* に与えられた注解の *gesettan* の表す意味については、この Mertens-Fonck の解釈とは異なる解釈も可能ではないかということを目指したい。

## II

本章では、(1)(2)におけるごとく、人間を目的語として取る場合の *gesettan* と *constituere* が基本的意味を共有し、しばしば前者が後者を訳すのに用いられることを示す。

まず *gesettan* と *constituere* は、次の (3)(4) におけるごとく、「(ある場所に一時的に) 置く、据える」の意味を持つ。

- (3) Eft syððan herodes iudea cyning, sette þone apostol petrum on cwearterne mid twam racenteagum gebundenne. & weardas wiðinnan & wiðutan *gesette*: (ÆCHom I, 37 505.240)<sup>5)</sup>

(その後ユダヤ人たちの王ヘロデは、使徒ペテロを牢獄で2本の鎖につないでおき、内と外に見張りを置いた。)

- (4) *liberti Asuvi et non nulli amici, . . . in eum invadunt et hominem ante pedes Q. Manli, qui tum erat triumvir, constituunt*: (CIC. Cluent. 38)<sup>6)</sup>

(アスウィウスの解放奴隷たちと若干の友人が、……彼に襲い掛かり、その者をそのとき三執政官の一人であったクイーントゥス・マーンリウスの前に据えた。)

次にこれらの動詞は、以下の (5)(6) におけるように、「(ある場所に長期的に) 据える、住ませる」の意味を表す。

- (5) He wæs on Romana onwalde, for þon þe hie hiene þær *gesetton*. (Or 5 2.116.4)<sup>7)</sup>

(彼 [アジアの王デーメトリウス] はローマ人たちの支配下にあったが、それは彼らが彼をそこに据えたからである。)

- (6) Si pacem populus Romanus cum Helvetiis faceret, in eam partem ituros atque ibi futuros Helvetios, ubi eos Caesar *constituisset* atque esse voluisset; (CAES. Gall. 1, 13)<sup>8)</sup>

(もしローマ人民がヘルウェーティー族と和睦するなら、ヘルウェーティー族はカエサルが彼らを住ませ、留まることを欲する地域に行き、そこに留まるであろう。)

またこれらの語は、次の (7)(8) に見られるごとく、「(比喩的にある場所に) 置く、据える」の意味を表す。

- (7) Seo ealde æ. segð us þæt heahenglas sind *gesette* ofer gehwylcum leodscipum þæt hi þæs folces gyman ofer þam oþrum englum: (ÆCHom I, 34 474.259)

(旧約は、大天使たちが、民の世話をするため、すべての民族の上に、他の天使たちの上に、据えられていると伝える。)

- (8) *constitue super eum peccatorem et diabolus stet a dextris eius* (Ps 108:6)

(罪人を彼の上に据え、中傷者を彼の右に立たせよ。)

さらにこれらの語は、以下の (9)(10) におけるように、「(ある地位・職務に) 据える、任命する」の意味を表す。この意味を表すとき *gesettan* は、(9) に見られるごとく、地位・職務の前に前置詞 *to* を置いて用いられることが多い。<sup>9)</sup>

- (9) *þær wes se cing gehaten Sæberht, Ricolan sunu Æðelberhtes suster, þone Æðelberht gesette þær to cininga*, (ChronE 604.2)<sup>10)</sup>

(そこでは王はセーベルフトと呼ばれ、エゼルベルフトの姉妹の息子であり、エゼルベルフトが彼を王に任命した。)

- (10) *si omnes in culpa fuerint, non oportuisse Cleomenen constitui spectatorem illorum mortis atque cruciatus*; (CIC. Verr. II 5, 134)<sup>11)</sup>

(もし皆に罪があったならば、クレオメネースを彼らの死と処刑の傍観者としてはならなかった。)

最後に両語は、次の (11)(12) に見られるように、地位・職務のみを目的語に取り、「据える、任命する」の意味を表す。

- (11) *on sumere byrig he wæs twelf monað on sumere twa gear on sumere þreo. & gesette biscopas & mæssepreostas. & godes þeowas* (ÆCHom I, 27 402.59)

(彼はある町には12か月、ある町には2年、ある町には3年留まり、司教たち、ミサ司教たち、神の僕たちを任命した。)

- (12) *Itaque introductis in senatum indicibus constitui senatores qui omnia indicum dicta, interrogata, responsa perscriberent*. (CIC. Sull. 42)<sup>12)</sup>

(それ故、告発者たちが元老院に連れて来られると、私は、告発者たちのすべての発言、質問、返答を記録する元老院議員たちを任命した。)

以上示したごとく、*gesettan* と *constituere* は「据える」を中心としていくつかの意味を共に持つため、以下の (13)~(17) に見られるごとく、前者は後者の訳語として用いられる。(以下本稿では、*gesettan* と *constituere* の対応関係を例示する際には、このように古英語訳とラテン語原文を並べて引用する。)

下の (13) では、「(長期的に) 据える、住まわせる」を意味する *constituere* を訳すのに *gesettan* が用いられている。

- (13) oþer wæs haten Seuerus, þæm he gesealde Italam & Africam, & Maximinus he geseþte on þa eastlond. (Or 6 30.148.5)

(一方 [の王] はセウエルスと呼ばれ、この者に彼はイタリアとアフリカを与え、マクシミアスは東方に据えた。)

Maximum, quem in Oriente *constituit*, et Seuerum, cui permisit Italam, (OROS. Hist.adv.pag. 7.25.17)<sup>13)</sup>

(彼が東方に据えたマクシミアスと、イタリアを任せたセウエルスである。)

次の(14)では、「(比喩的位置に)置く、据える」を意味する *constituere* が *gesettan* により訳されている。

- (14) Ic ne eom an man under anwealde *gesett*; Cempan under me hæbbende. (Lk (WSCp) 7.8)<sup>14)</sup>

(私は権威の下に据えられた者ではありませんが、私の下には兵士たちがいます。)

nam et ego homo sum sub potestate *constitutus* . . . (Lc)

(なぜなら私も権威の下に据えられた者ですが、……)

次の(15)(16)では、「(ある地位・職務に)据える、任命する」の意味の *constituere* が *gesettan* により訳されている。(15)では *gesettan* は *to* を伴い、(16)ではラテン語同様前置詞を伴わない。

- (15) Gif seo geferræden to þam micel sy, syn gecorene of ðam sylfum gebroðrum, þa ðe godes gewittes syn and haligre drohtnunge, and *syn geseþte to teoðingealdrum*, (BenR 21.46.8)<sup>15)</sup>

(もし集団がかなり大きいならば、その修道士のうちから、知性に優れ、態度が敬虔な者たちが選ばれ、十人の長に任命されねばならない。)

. . . *elegantur de ipsis fratres boni testimonii et sanctae conuersationis et constituentur decani*, (BENEDICT. Reg. 21.1)<sup>16)</sup>

(……彼らの中から、評判が良く、態度が敬虔な修道士たちが選ばれ、十人の長に任命されねばならない。)

- (16) Ne ðin nama ne byð geciged heononforð Abram, ac ðu byst gehaten Abraham, for þam ðe ic þe *geseþte manegra þeoda fæder*. (Gen 17.5)<sup>17)</sup>

(お前の名は今後アブラムとは呼ばれず、お前はアブラハムと呼ばれるであろう。私がお前を多くの民族の父としたからである。)

. . . *quia patrem multarum gentium constitui te* (Gn)

(……私がお前を多くの民族の父としたからである。)

下の(17)では、地位・職務のみを目的語として伴う *constituere* が *gesettan* へと訳されている。

(17) *Geceos of eallum ðysum folce wise men & soðfæste, . . . & gesete of him ðusendmen & hundredmen & fiftigesmen & teoðingmen, (Exod 18.21)*

(このすべての民の中から賢明で誠実な者たち……を選び、彼らの中から、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長を任命せよ。)

. . . *et constitue ex eis tribunos et centuriones et quinquagenarios et decanos (Ex)*

(……彼らの中から、千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長を任命せよ。)

### III

前章では「据える」という意味を中心に *gesettan* と *constituere* の対応関係を見たが、本章では、さらに状態について用いられた両語の用法に目を向けたい。

*constituere* には、以下の権威と恩寵について用いられた (18) のそれのごとく、*in* と奪格を伴い、「(ある状態に) 据える」の意味がある。

(18) *Metram et eum quem tu mihi diligenter commendaras, Athenaeum, importunitate Athenaidis exsilio multatos in maxima apud regem auctoritate gratiaque constitui, (CIC. epist. 15, 4, 6)<sup>18)</sup>*

(メトラスと、あなたが私に特に推薦していたあのアテーナエウスを——彼らはアテーナイスの非情により追放の罰を受けていたのであるが——私は王の傍らに最高の権威と恩寵のうちに据えた。)

この *constituere* の用法の背後には、以下の (19)(20) におけるごとく、*in* に支配された場所や地位・職務を伴うこの語の用法があると考えられる。

(19) *Hos ego censeo permixtos cum veteribus novos in coloniis constituas; (PS. SALL. rep. 2, 5, 8)<sup>19)</sup>*

(あなたは、古い者 [市民] たちと混ぜ合わされた新しい者たちを植民地に定住させるべきと私は考える。)

(20) *qui autem tibi debent, ab iis plane hoc munus exigito, . . . qui ipsi sectari non poterunt, suos necessarios in hoc munere constituent. (Q. CIC. pet. 37)<sup>20)</sup>*

(あなたに対し義務を負う者たちからは、はっきりとこの務め [選挙運動において候補者に同伴すること] を要求し、……同伴することができない者たちには、自分の縁者たちをこの任務に就けさせるべきである。)

同様に *gesettan* も、次の (21) におけるごとく、*on* と与格を伴い、ある状態に置くことについて用いられる。

(21) *Ða wolde Pharao, se Egiptisca cyning, hi yfele geswencan and gesette hi on þeowte to his weallgeweorcum, þæt hi worhton his burga.* (ÆHomM 15 94)<sup>21)</sup>

(そこでエジプトの王ファラオは彼らをひどく苦しめようとし、城壁を建造するため奴隷の身分に置き、彼の町を造らせた。)

この *gesettan* の用法は、以下の (22) に見られるように、*on* と地位・職務の与格を伴うこの語の用法の延長上にあると理解できる。

(22) *Hi ferdon þa forð to ðam fore-sædan bisceope, . . . ac he ne leofode na þa. ac wæs for feawum dagum forðfaren of life. and oðer biscop geset on his bisceop-stole.* (ÆLS (Maur) 111)<sup>22)</sup>

(それから彼らは……前述の司教のもとへ行だったが、彼はそのときには生存せず、数日前にこの世を去っていて、別の司教がその司教の座に据えられていた。)

従って、以下の (23) におけるように、*in* と奪格を伴い、ある状態に置くことについて用いられた *constituere* が、*in* と与格を伴う *gesettan* へと表されるケースが見出される。

(23) *se wæs in woroldlicum hade geseted & begæt him to rihtan gesinscipe Ualerianes dohter þyssere burge deman,* (GDPref and 4 (C) 27.299.27)<sup>23)</sup>

(彼は世俗の身分にあり、この町の判事であるウァレリアーヌスの娘を正式な婚姻により娶っていた。)

*Qui dum esset in saeculari habitu constitutus, . . .* (GREG.MAG. Dial. 4.27)<sup>24)</sup>

(彼は、世俗の身分にあったとき、……)

問題の (1) の *constituere* も、以下のごとく J. Knabenbauer が (1) の後半を *ponere* (置く) を用いて解釈するように、「(ある状態に) 据える」の意味で用いられている——目的語が置かれる状態を表す *in spe* を切り離せない句として伴う——と見なすことは可能である。

*tu Domine solummodo, ceteris timentibus seu desperantibus, me in spe adeo*

*firma posuisti*,<sup>25)</sup>

(主よ、あなたは、他の者たちが恐れ、絶望するとき、私だけをかくも揺るぎなき希望のうちに置いた。)

また *gesettan* も「(ある状態に) 据える」の意味で用いられるということは、(21)(23) で見た通りである。

故に、(1) の *constituere* の持つ「(ある状態に) 据える」の意味は、訳語としての *gesettan* に反映され、I で示した Mertens-Fonck によるこの *gesettan* のとらえ方は妥当であると言える。

#### IV

ここで (1) のギリシャ語原文、すなわち七十人訳聖書 (LXX)<sup>26)</sup> において問題箇所に対応する部分である以下の (24) を見てみよう。すると *constituere* は *κατοικίξειν* (住まわせる) に、*in spe* は *ἐπ' ἐλπίδι* (希望に基づいて)<sup>27)</sup> に由来することがわかる。

(24) ... ὅτι σύ, κύριε, κατὰ μόνας ἐπ' ἐλπίδι κατ' ὀκισάς με. (Ps 4:9)

(……主よ、あなたが私だけを希望に基づいて住ませたからである。)

この *ἐπ' ἐλπίδι* という表現は、LXX の詩篇の中では次の (25) においても現れる。

(25) διὰ τοῦτο ἠψφράνθη ἡ καρδία μου, καὶ ἠγαλλιάσατο ἡ γλῶσσά μου, ἔτι δὲ καὶ ἡ σάρξ μου κατασκηνώσει ἐπ' ἐλπίδι, (Ps 15:9)

(それ故我が心は喜び、我が舌は歡喜した。その上我が肉体は希望に基づいて住まうであろう。)

(24)(25) の *ἐπ' ἐλπίδι* は、ヘブライ語原典の *בטוב* (安全に、心配なく)<sup>28)</sup> という表現に対応している。ここで注意すべきは、(25) で *ἐπ' ἐλπίδι* と共に用いられている *κατασκηνοῦν* (住まう) という動詞が、次の (26) におけるごとく、独立しても用いられるという事実である。

(26) οἱ υἱοὶ τῶν δούλων σου κατασκηνώσουσιν, καὶ τὸ σπέρμα αὐτῶν εἰς τὸν αἰῶνα κατευθυνθήσεται. (Ps 101:29)

(あなたの僕たちの子らは住まい、彼らの子孫は永遠に導かれるであろう。)

従って、(25) の *κατασκηνοῦν* は独立して用いられていると——すなわちそれを後続する *ἐπ' ἐλπίδι* と切り離して——とらえることが可能である。<sup>29)</sup>

注目に値するのは、問題の(24)に用いられている *κατοικίσειν* も、次の(27)におけるごとく、句を従えず(目的語のみを従えて)現れ得るという点である。

(27) *καὶ κατοίκησεν Ἰωσήφ τὸν πατέρα καὶ τοὺς ἀδελφοὺς αὐτοῦ καὶ ἔδωκεν αὐτοῖς κατάσχεσιν ἐν γῆ Αἰγύπτου* (Gen 47:11)

(ヨセフは彼の父と兄弟たちを住ませ、彼らにエジプトの地で所有地を与えた。)

よって(24)の *κατοικίσειν* も、(25)の *κατασκηνοῦν* と同じく、*ἐπ' ἐλπίδι* から切り離してとらえることができると認められる。従って、前章では、(1)の *in spe* を目的語が置かれる状態とみなし、*constituere* と切り離せないものとしてとらえられることを示したが、このとらえ方は、ギリシャ語原文における *κατοικίσειν* と *ἐπ' ἐλπίδι* の関係とは矛盾することになる。

(24)におけると同じく、*κατοικίσειν* が *ἐπ' ἐλπίδι* と共に用いられているケースとしては、次の(28)を挙げることができる。

(28) *καὶ τόξον καὶ ῥομφαίαν καὶ πόλεμον συντρίψω ἀπὸ τῆς γῆς καὶ κατοικίω σε ἐπ' ἐλπίδι*. (Os 2:20)

(また私は弓と剣と戦いを地上から粉碎し、お前を希望に基づいて住ませるのである。)

古ラテン語訳 (*Vetus Latina*) で(28)に対応する次の(29)では、*κατοικίσειν* は *constituere* によってではなく、*inhabitare facere* (住ませる)によって表されている。

(29) *... et inhabitare te faciam in spe*; (ITALA Os. 2, 18 (Sangall.))<sup>30)</sup>

(……お前を希望のうちに住ませるのである。)

また *Augustinus* (354~430)<sup>31)</sup> は、(1)の後半に当たる部分を、以下の(30)におけるように、やはり *constituere* を用いず、*habitare facere* (住ませる)を用いて引用している。

(30) *Quoniam tu, Domine, singulariter in spe habitare fecisti me*. (ITALA psalm. 4, 10 (Aug. *ad l.*))<sup>32)</sup>

(主よ、あなたが私だけを希望のうちに住ませたからである。)

このように(29)(30)において、*κατοικίσειν* は直訳的に表されているが、*constituere*——これと *in spe* は動詞とその目的語が置かれる状態として不可分の関係にあると見られる——が *κατοικίσειν* の訳語として避けられている点で、これらにおいては(1)におけるより正確な訳がなされていると

認められる。

## V

ここで、(1) の *constituere* を「(ある状態に) 据える」以外の意味でとらえることができないか考えてみたい。この点で注目すべきは、次の (31) に見られるように、この動詞が「揺るがぬようにする、堅固にする」の意味で用いられる場合があるという事実である。

(31) *interficiebat resistentes, precantibus impertiebat veniam salutis, fugabat adversarios, constituiebat suos.* (HEGES. 4, 25, 1)<sup>33)</sup>

(彼は抵抗する者たちを殺し、命乞いをする者たちには生存の恩恵を施し、敵対する者たちを敗走させ、自軍を堅固にした。)

ここで *constituere* は、場所・地位・職務・状態のいずれの表現も伴わないため、「(…に) 据える」の意味ではとらえられないことが了解される。

ならば、この意味で問題の (1) の *constituere* をとらえること——この動詞を *in spe* から切り離して理解すること——は可能であろうか。以下は、Theodorus Mopsuestenus (428 没) によるギリシャ語の注釈を、Iulianus Aelclanensis (455 以前没) がラテン語に翻訳したものにおいて、(1) の後半について述べられている部分である。

*Tu, inquit, singulariter me constituisti, separans ab illorum consortio qui ita praeue atque impie sentire non metuunt, ut credant nullam rebus praeesse rationem.* (IVLIAN. in psalm. 4, 10)<sup>34)</sup>

(「あなたは」、邪まにも、また不信心にも、いかなる原理も事象を支配しないと恐れもなく考える者たちとの付き合いから引き離して、「私だけを堅固にした」と [ダビデは] 言う。)

また次は、Cassiodorus (580 頃没) が問題の部分について述べた一節である。

*Et cum dicit: Constituisti me, significat dignam deliberatamque sententiam, quam hic habemus in spe, ibi autem possidetur in re.* (CASSIOD. in psalm. 4, 9 10 l. 247)<sup>35)</sup>

(「私を堅固にした」と [母なる教会が] 言うとき、それは、こちらでは我々が希望のうちに有しているが、あちらでは現実に得られる、尊く、熟考された意図を意味する。)

これらの教父の解釈に共通していることは、(1) の *constituere* を *in spe* か

ら切り離してとらえている点である。

さらに(1)のギリシャ語原文の(24)では、constituereが由来するκατοικίζεινとin speが由来するἐπὶ ἐλπίδιとが分離されて理解されることは、前章で見た通りである。

従って、以下のJ. Niglutschによる(1)の後半の言い換えにおけるごとく、このconstituereを「堅固にする」の意味で理解することは可能である。<sup>36)</sup>

speciali modo (iuxta al.: tu solus) in spe me confirmasti,<sup>37)</sup>

(特別に(他によれば、あなただけが)私を希望のうちに堅固にした。)

次に、constituereから切り離されたin speをどのように扱うべきかについて考えたい。以下の(32)にもin speが見出される。

(32) et deduxit eos in spe et non timuerunt et inimicos eorum operuit mare (Ps 77:53)

(彼[神]は彼らを希望のうちに導き出し、彼らは恐れず、海が彼らの敵を包み込んだ。)

このin speは、deducere(導き出す)の目的語のeosと結び付けて、「(彼らを)希望のうちに」——言い換えると「希望のうちにある(彼らを)」——と解釈できる。<sup>38)</sup>同様に(1)のin speもconstituereの目的語のmeと関連させて、「(私を)希望のうちに」——あるいは「希望のうちにある(私を)」——ととらえることが可能である。

Ⅲにおけるごとく、(1)のconstituereとin speを結び付けると、(1)の後半は、希望を揺るぎなく持たせた、という趣旨で理解されるが、本章におけるごとく、それらを切り離すと、問題箇所は、希望のうちにあることで(信仰心などにおいて)強固な人間となした、という趣旨でとらえることが可能となる。

最後に重要なのは、gesettanに「堅固にする」の意味があるかどうかであるが、次の(33)はgesettanがこの意味を持つことを示すものである。

(33) & he þer gehadode godne wer. se wes mid ciriclicum þeodscipum geseted. & in lifes bilwetnisse þoncfulre þonne in woruldæhtum. þes nama wes Putta; (LS 3 (Chad) 32)<sup>39)</sup>

(彼はそこで、教会の規律をもって堅固となり、世俗の財産より生活の質素に満ち足りた、プッタという名の善良な人物を叙階した。)

ここにおいてgesettanは、場所・地位・職務・状態のいずれの表現も伴わず、故に「(…に)据える」の意味ではなく、「堅固にする」の意味で理解

される。<sup>40)</sup>

以上から、Ps 4:10の *constituere* に与えられた注解の *gesettan* については、下の二通りの解釈が成り立つことがわかる。

1. 「(ある状態に) 据える」の意味で、据えられる状態を表す表現(「希望のうちに」とは不可分の関係にあり、しっかりと希望を持たせた、という趣旨において用いられている。
2. 「堅固にする」の意味で、「希望のうちに」から切り離しても意味を成し、希望の中にあることで(信仰心などにおいて)強固な人間となった、という趣旨において用いられている。

I で示した通り Mertens-Fonck は 1 の解釈の側に立っており、よってこの解釈とは別の解釈も可能であると結論できる。

## 注

- 1) R. Gryson et al., *Biblia Sacra iuxta vulgatam versionem*, 4. Aufl. (Stuttgart, 1994).
- 2) 古英語のテキストの略記と引用の仕方は、原則として、DOE (A. Cameron et al., *Dictionary of Old English: A to G on CD-ROM* (Toronto, 2008)) に従い、ラテン語のテキストのそれは、原則として、同辞典または TLL (*Thesaurus Linguae Latinae* (Leipzig, 1900-)) に従う。なお、頭に括弧付の番号を振った、古英語、ラテン語およびギリシャ語の引用文中のイタリック部分は、すべて筆者によるものである。
- 3) それぞれのテキストは以下の通り。A = *The Vespasian Psalter*, S. M. Kuhn (Ann Arbor, 1965); B = *Der altenglische Junius-Psalter*, E. Brenner, AF 23 (Heidelberg, 1908; Nachdr. Amsterdam, 1973); C = *Der Cambridger Psalter*, K. Wildhagen, Bib. ags. Prosa 7 (Hamburg, 1910; Nachdr. Darmstadt, 1964); D = *Der altenglische Regius-Psalter*, F. Roeder, Studien zur englischen Philologie 18 (Halle, 1904; Nachdr. Tübingen, 1973); E = *Eadwine's Canterbury Psalter*, F. Harsley, EETS 92 (London, 1889); F = *The Stowe Psalter*, A. C. Kimmens, (Toronto, 1979); G = *The Vitellius Psalter*, J. L. Rosier, (Ithaca, NY, 1962); H = *The Tiberius Psalter*, A. P. Campbell, Ottawa Mediaeval Texts and Studies 2 (Ottawa, 1974); I = *Der Lambeth-Psalter*, U. Lindelöf, Acta Societatis Scientiarum Fennicae 35, 1 (Helsingfors, 1909); J = *Der altenglische Arundel-Psalter*, G. Oess, AF 30 (Heidelberg, 1910; Nachdr. Amsterdam, 1968); K = *The Salisbury Psalter*, C. Sisam and K. Sisam, EETS 242 (London, 1959).
- 4) P. Mertens-Fonck, *A Glossary of the Vespasian Psalter and Hymns*, pt. 1 (Paris,

- 1960), s.v. *gesettan* [p. 276].
- 5) P. Clemons, *Ælfric's Catholic Homilies: The First Series, Text*, EETS s.s. 17 (Oxford, 1997).
- 6) H. G. Hodge, *Cicero: Pro Lege Manilia, Pro Caecina, Pro Cluentio, . . .* Loeb Classical Library (LCL) 198 (1927), p. 258. (4) は *OLD* (P. G. W. Glare, *Oxford Latin Dictionary* (Oxford, 1982)), s.v. *constituo* 2 の「(特定の位置に)置く、配置する; ……」 (“To place, dispose, locate (in a specified position); . . .”) に挙げられている例である。
- 7) J. Bately, *The Old English Orosius*, EETS s.s. 6 (London, 1980). (5) は T. N. Toller, *An Anglo-Saxon Dictionary: Supplement* (Oxford, 1921), s.v. *gesettan* II(1)(b) の「(永続的に)置く、住ませる」 (“to place, settle permanently”) に挙げられている例である。
- 8) H. J. Edwards, *Caesar: The Gallic War*, LCL 72 (1917), p. 20. (6) は *TLL*, s.v. *constituo* IB1 の「特定の場所を割り当てる」 (“certum locum assignare”) に挙げられている例である。
- 9) Toller, s.v. *gesettan* II(2a) では “*gesettan to*” の形が扱われ、 $\alpha$  で「(王などに)任命する」 (“to make king, &c., appoint”) の語義が挙げられている。
- 10) S. Irvine, *The Anglo-Saxon Chronicle: A Collaborative Edition, Volume 7: MS. E* (Cambridge, 2004), p. 22.
- 11) L. H. G. Greenwood, *Cicero: The Verrine Orations*, vol. 2, rev., LCL 293 (1953), p. 614. (10) は *OLD*, s.v. *constituo* 5 の「(述語と共に) (人を…に) 据える、任じる; ……」 (“(w. pred.) To establish (a person as), make; . . .”) に挙げられている例である。
- 12) C. Macdonald, *Cicero: In Catilinam I–IV, Pro Murena, Pro Sulla, . . .* LCL 324 (1977), p. 354. (12) は *OLD*, s.v. *constituo* 7b の「(役人などを) 任命する、選任する」 (“to create, appoint, elect (an official, etc.)”) に挙げられている例である。
- 13) C. Zangemeister, *Pauli Orosii Historiarum adversum Paganos Libri VII*, CSEL 5 (Vindobonae, 1882), p. 492.
- 14) W. W. Skeat, *The Gospel according to Saint Luke and according to Saint John* (Cambridge, 1874, 1878; Nachdr. Darmstadt, 1970).
- 15) A. Schröer, *Die angelsächsischen Prosabearbeitungen der Benediktinerregel*, Bib. ags. Prosa 2 (Kassel, 1885–88; Nachdr. Darmstadt, 1964).
- 16) R. Hanslik, *Benedicti Regula*, ed. altera, CSEL 75 (Vindobonae, 1977), p. 83.
- 17) S. J. Crawford, *The Old English Version of the Heptateuch*, EETS 160 (1922; repr. London, 1969).
- 18) D. R. S. Bailey, *Cicero: Letters to Friends*, vol. 1, LCL 205 (2001), p. 474. (18) は *OLD*, s.v. *constituo* 6 の「…… (人のある状態に) 据える」 (“ . . . to establish (a

- person in a state or condition”）と、K. E. Georges, *Ausführliches lateinisch-deutsches Handwörterbuch*, 2 Bde. (Nachdr. d. 8. Aufl.), s.v. *constituo* II.1.d の「ある人の傍らにある間柄に置く、in と間柄の奪格と共に」(“bei jmd. in ein Verhältnis einsetzen, m. in u. Abl. des Verhältnisses”)に挙げられている例である。
- 19) J. C. Rolfe, *Sallust*, rev., LCL 116 (1931), p. 470. (19) は *OLD*, s.v. *constituo* 2b の「(入植者を) 定住させる」(“to settle (colonists)”)に挙げられている例である。
- 20) D. R. S. Bailey, *Cicero: Letters to Quintus and Brutus*, . . . *Handbook of Electioneering*, LCL 462 (2002), p. 428. (20) は *TLL*, s.v. *constituo* II A3 の「『ある人にある職を割り当てる』と同じ、また一般にある人を何であれ極点へと導く、招く、任命する」(“i. q. alicui aliquod munus assignare, vel omnino aliquem ad quemlibet finem admoveere, accire, creare, facere”)と、Georges, s.v. *constituo* II.1.c の「ある人を地位・職務に就ける、任命する、また in と奪格と共に」(“jmd. in einen Posten, ein Amt einsetzen, setzen, ihn anstellen, auch m. in u. Abl.”)に挙げられている例である。
- 21) B. Assmann, *Angelsächsische Homilien und Heiligenleben*, Bib. ags. Prosa 3 (Kassel, 1889; Nachdr. Darmstadt, 1964), p. 105.
- 22) W. W. Skeat, *Aelfric's Lives of Saints*, vol. 1, EETS 76, 82 (London, 1881–85), p. 154.
- 23) H. Hecht, *Bischof Wærferths von Worcester Übersetzung der Dialoge Gregors des Grossen*, Bib. ags. Prosa 5, 1. Abt. (Leipzig, 1900; Nachdr. Darmstadt, 1965).
- 24) A. de Vogüé, *Grégoire le Grand: Dialogues*, t. 3, Schr 265 (Paris, 1980), p. 92.
- 25) J. Knabenbauer, *Commentarius in Psalmos*, ed. secunda (Parisiis, 1930), p. 30.
- 26) A. Rahlfs, *Septuaginta*, ed. altera (Stuttgart, 2006).
- 27) W. Bauer, *Griechisch-deutsches Wörterbuch zu den Schriften des Neuen Testaments und der frühchristlichen Literatur*, 6. Aufl. hrsg. v. K. Aland u. B. Aland (Berlin, 1988), s.v. ἐλπὶς 2 では、使徒行伝 2:26 に引用された (25) の ἐπὶ ἐλπίδι が、「希望に基づいて」(“auf Grund der Hoffnung”)を意味するか、あるいは旧約聖書の語法に従って「心配なく、安全に」(“sorglos, in Sicherheit”)を意味するであろうと記されている。
- 28) L. Koehler und W. Baumgartner, *Hebräisches und aramäisches Lexikon zum Alten Testament*, 3. Aufl. (Leiden, 1967–96), s.v. בטח a) בטח לבטח in S[icherheit]. . . sorglos.
- 29) *Theologisches Wörterbuch zum Neuen Testament*, begr. v. G. Kittel, hrsg. v. G. Friedrich, 11 Bde (1933–79; Nachdr. Stuttgart, 1990), Bd. 7, s.v. κατασκηνώω [p. 391] では、(25) の後半について「希望はここではダビデやキリストが留まるであろう領域とは考えられず」(“Die Hoffnung ist dabei nicht als der Bereich gedacht, in dem David bzw der Christus verweilen werden”)、ἐπὶ ἐλπίδι はヘブラ

- イ語原典の *חָבַט* に対応して「望むらくは」(“hoffentlich”)の意味であり、「κατασκηνώ はそれ故『留まる、生き続ける』の意味で、独立して用いられている」(“κατασκηνώ ist somit absolut gebraucht: *verweilen, Bestand haben*”)と解釈されている。
- 30) P. A. Dold, *Konstanzer alllateinische Propheten- und Evangelienbruchstücke mit Glossen* (Beuron, 1923), p. 266.
- 31) 以下生没年は *TLL* による。
- 32) E. Dekkers et I. Fraipoint, *Sancti Aurelii Augustini Enarrationes in Psalmos I–L*, CCSL 38 (Turnholti, 1956), p. 19.
- 33) *Hegesippi qui dicitur sive Egesippi historiae libri quinque* (1857), p. 40. (31) は *TLL*, s.v. *constituo* IIB3 の『『堅固にする』と同じ、強くする、固める、など』(“i. q. stabilire, roborare, firmare, sim.”)のもと、「人について」(“de personis”)用いられた例に挙げられている。
- 34) L. de Coninck, *Theodori Mopsuesteni Expositionis in Psalmos Iuliano Aelcanensi Interprete in Latinum Versae Quae Supersunt*, CCSL 88A (Turnholti, 1977), p. 25.
- 35) M. Adriaen, *Magni Aurelii Cassiodori Expositio Psalmorum I–LXX*, CCSL 97 (Turnholti, 1958), p. 62.
- 36) (1) の *constituere* は *TLL*, s.v. *constituo* IIB3 に (31) のそれと並んで挙げられている。ただし、この *TLL* の語義について注意を要するのは、(18) の *constituere* も同じ語義のもとに挙げられていることである。ここで *TLL* は (18) について「すなわち、私は王の……恩寵へと回復させた」(“i. in gratiam... regis restitui”) という解釈を記しているところからすると、同辞典は、in と奪格が、いかなる点で目的語の人物を強固にしたかを表すと見なしているようである。よって (1) は、*TLL* に従えば、「……希望において [について] 堅固にしたからである」とも取れることになるが、このとらえ方は、確固たる希望を持たせた、という趣旨である点で、III におけるごとく「……希望のうちに据えたからである」ととらえるのと意味内容において大差はない。
- 37) J. Niglutsch, *Brevis Explicatio Psalmorum*, ed. quinta (Bauzani, 1923), p. 33. ただし、この Niglutsch の言い換えは「……希望において [について] 堅固にした」とも読め、その場合は注36)に記したとおり、希望を堅持させた、という趣旨となる。
- 38) G. Hoberg (*Die Psalmen der Vulgata*, 2. Aufl. (Freiburg im Breisgau, 1906), p. 285) は、この in spe が「eos と共に一つの観念を成す：希望と信頼のうちに = 希望を持った、信頼に満ちた [彼らを]」(“bildet mit eos einen Begriff: in, unter Hoffnung und Vertrauen = sperantes, vertrauensvoll”) と述べる。
- 39) R. Vleeskruyer, *The Life of St. Chad* (Amsterdam, 1953), p. 164.
- 40) Vleeskruyer (p. 192) は、(33) の *geseted* に “set, confirmed” の意味を与え、

「Napier が示唆するほど問題のある訳語ではない」（“not so objectionable a translation as Napier [“Ein altenglisches Leben des Heiligen Chad,” *Anglia* 10 (1888), 149] implies”）と述べる。この *gesettan* は、ラテン語原文である BEDA. Hist.eccl. 4.2, 336 (B. Colgrave and R. A. B. Mynors, *Bede's Ecclesiastical History of the English People* (Oxford, 1969)) の “ordinavit uirum magis ecclesiasticis disciplinis institutum et uitae simplicitate contentum quam in saeculi rebus strenuum, . . .”（彼は、世俗の物事に活動的であるよりむしろ、教会の規律について教育を受け、生活の質素に満ち足りた……人物を叙階した）における *instituire* に由来し、このラテン語は、*OLD*, s.v. *instituo* 6 の「…の心や性格に吹き込む、訓練する、教える」（“To inform the mind or character of, train, instruct”）の意味である。一方、同じラテン語原文を訳した Bede 4 2.260.16 (T. Miller, *The Old English Version of Bede's Ecclesiastical History of the English People*, pt. 1, 2, EETS 96 (London, 1891)) の “þa gehadode he sumne mon, se was ma in ciriclecum þeodscipum & in lifes bylwitnessse gelæred, þon he from wære in worulde þingum, . . .”（彼は、世俗の物事に活動的であるよりむしろ、教会の規律と生活の質素について教育を受けた……ある人物を叙階した）では、この *instituire* は *gelæran*（教える）により表されており、こちらの方が *gesettan* と比較すればより適切な訳語であるとは言える。

## On Old English *gesettan* and Latin *constituere*

Satoru ISHIHARA

Latin *constituere* in *quoniam tu Domine singulariter in spe constituisti me* (Ps 4:10) “for thou, O Lord, hast separately settled me—or confirmed me, [who am]—in hope” is rendered by *gesettan* in the Old English Psalter glosses; and one of these instances is cited by P. Mertens-Fonck under the definition “to place (a person in a position of authority).”

While *constituere* is often used with a place or status, it can also be used with a condition, meaning “to establish (in a condition),” e.g. *in maxima apud regem auctoritate gratiaque constitui* (CIC. epist. 15, 4, 6) “I established [Metras and Athenaeus] in the greatest authority and favor by the king.” And J. Knabenbauer interprets Ps 4:10, using *ponere* inseparably followed by a state, as: *tu Domine solummodo, . . . me in spe adeo firma posuisti* “thou, O Lord, hast put me alone in such a firm hope, . . .” Furthermore, Old English *gesettan* is sometimes used likewise with a state, e.g. *and gesette hi on þeowte to his weallgeweorcum* (ÆHomM 15 95) “and [the Egyptian king] set them in slavery to his wall-building.” All these facts show that the above citation of *gesettan* rendering *constituere* in Ps 4:10 by Mertens-Fonck is appropriate.

On the other hand, *constituere* can also mean “to strengthen, confirm,” without being followed by a place, status or condition, as in *fugabat adversarios, constituebat suos* (HEGES. 4, 25, 1) “he put adversaries to flight, strengthened his own men.” And in Julian’s translation of Theodore’s commentary, *constituere* in Ps 4:10 is dealt separately from the *in spe: singulariter me constituisti, separans ab illorum consortio qui . . .* (IVLIAN. in psalm. 4, 10) “thou hast separately confirmed me, separating [me] from company with those who . . .” Thus, as J. Niglutsch renders the *singulariter in spe constituisti me* as *speciali modo . . . in spe me confirmasti* “in a special way . . . thou hast confirmed me in hope,” the *constituere* in Ps 4:10 can also be grasped in the sense “to strengthen, confirm.” Moreover, *gesettan* can be used in the same sense, e.g. *& he þer gehadode godne wer. se wes mid circlicum þeodscipum geseted* (LS 3 (Chad) 32) “and he there consecrated a good man, who was confirmed through ecclesiastical regulations.” Therefore, *gesettan* used as a gloss to *constituere* in Ps 4:10 can be interpreted not only as “to establish (in a condition)” but also as “to strengthen, confirm.”